

三浦綾子年譜

(1922年4月25日 - 1999年10月12日)

- 大正11年(1922年)4月25日
北海道旭川市に生まれる。堀田鉄治・キサの第五子(次女)。後に第4人、妹ひとり。
- 昭和14年(1939年) 17歳
旭川市立高等女学校卒業。4月、空知郡歌志内町の神威小学校教員に。
- 昭和16年9月に旭川市啓明小学校に転勤、計7年間教員として勤務。
- 昭和21年(1946年) 24歳
敗戦までの国家の欺瞞や教育の過ちに気付き、3月教員を退職。
6月、肺結核を発病、後脊椎カリエスを併発し、以後13年間闘病生活を送る。
- 昭和23年(1948年) 26歳
同じく結核療養中の幼なじみ前川正氏と再会。その深い愛情と人間性を通じてキリスト教の信仰に目ざめる。
- 昭和24年(1949年) 27歳
虚無と自棄の末に自殺未遂。
- 昭和27年(1952年) 30歳
病床で小野村林蔵牧師より洗礼を受ける。
- 昭和34年(1959年) 37歳
前川正氏の死後知り合ったクリスチャンの三浦光世氏と結婚。当時光世氏は旭川営林局勤務。
- 昭和36年(1961年) 39歳
旭川市内で雑貨店開業。
- 昭和37年(1962年) 40歳
1月、雑誌「主婦の友」募集の第一回「愛の記録」に応募、林田律子の筆名で「太陽は再び没せず」が入選。
- 昭和39年(1964年) 42歳
7月、朝日新聞社一千万円懸賞小説「氷点」が入選。朝日新聞朝刊に12月から翌年11月まで連載される。雑貨店閉業。
- 昭和40年(1965年) 43歳
11月、「氷点」を朝日新聞社より刊行。
- 昭和41年(1966年) 44歳
12月、小説「ひつじが丘」(主婦の友に連載、昭和40年8月号～41年12月号)を主婦の友社より刊行。
- 昭和42年(1967年) 45歳
10月、随筆集「愛すること信ずること」を講談社より刊行。
- 昭和43年(1968年) 46歳
5月、小説「積木の箱」(朝日新聞夕刊に連載、昭和42年4月～43年5月)を朝日新聞社より刊行。
9月、小説「塩狩峠」(キリスト教誌「信徒の友」に連載、昭和41年4

月号～43年10月号)を新潮社より刊行。

昭和44年(1969年) 47歳

1月、自伝小説「道ありき」(「主婦の友」に連載、昭和42年1月号～43年12月号)を主婦の友社より刊行。

10月、中短編集「病めるときも」を朝日新聞社より刊行。

昭和45年(1970年) 48歳

5月、小説「裁きの家」(「週間ホーム」に連載のものに一部加筆)を集英社より刊行。

12月、自伝小説「この土の器をも」(「主婦の友」に「わが結婚の記」として連載、昭和44年9月号～45年12月号)を主婦の友社より刊行。

昭和46年(1971年) 49歳

5月、小説「続・氷点」(朝日新聞朝刊に連載、昭和45年5月～46年5月)を朝日新聞社より刊行。

12月、「光あるうちに」(「主婦の友」に連載、昭和46年1月号～12月号)を主婦の友社より刊行。

昭和47年(1972年) 50歳

5月、「愛すること信ずること」を講談社現代親書として刊行。

6月、エッセイ「生きること思うこと」を主婦の友社より刊行。

7月、小説「自我の構図」(「小説宝石」昭和45年2月号と5月号に発表した「愛の誤算」をもとに書き下ろしたもの)を光文社より刊行。

8月、小説「帰りこぬ風」(月刊「アイ」に連載、昭和46年7月号～47年6月号)を主婦の友社より刊行。

11月、エッセイ「あさっての風」を角川書店より刊行。

昭和48年(1973年) 51歳

3月、小説「残像」(「女性セブン」に連載、昭和47年1月1日号～12月27日号)を集英社より刊行。

4月、光世・綾子対談集「愛に遠くあれど」を講談社より刊行。

5月、前川正氏との往復書簡集「生命に刻まれし愛のかたみ」を講談社より刊行。「塩狩峠」新潮文庫版を刊行。

11月、光世・綾子合同歌集「共に歩めば」を聖燈社より刊行。

12月、短編集「死の彼方までも」を光文社より刊行。

昭和49年(1974年) 52歳

4月、自伝小説「石ころのうた」(「短歌」に連載、昭和47年4月号～48年8月号)を角川書店より刊行。

11月、光世氏との共著エッセイ「太陽はいつも雲の上に」を主婦の友社より刊行。

12月、「旧約聖書入門」(「信徒の友」に連載、昭和47年8月号～49年3月号)を光文社カップブックスとして刊行。

昭和50年(1975年) 53歳

8月、歴史小説「細川ガラシャ夫人」(「主婦の友」に連載、昭和48年1月号～50年5月号)を主婦の友社より刊行。

昭和51年(1976年) 54歳

3月、5月、小説「天北原野」上・下(「週刊朝日」に連載、昭和49年

1 1月8日号～5 1年4月16日号)を朝日新聞社より刊行。

4月、小説「石の森」(「セブンティーン」に連載、昭和5 0年2月号～5 1年2月号)を集英社より刊行。

昭和5 2年(1 9 7 7年) 5 5歳

3月、小説「広き迷路」(「アイ」に連載、昭和5 0年7月号～5 2年1月号)を主婦の友社より、小説「泥流地帯」(北海道新聞日曜版に連載、昭和5 3年2月26日号～1 1月12日号)を新潮社より刊行。

5月、「あさっての風」角川文庫版、「裁きの家」集英文庫版を刊行。

6月、小説「果て遠き丘」(「女性セブン」に連載、昭和5 1年1月14日号～5 2年3月17日号)を集英社より刊行。

1 1月、「残像」集英文庫版を刊行。

1 2月、「新約聖書入門」(「宝石」に連載、昭和5 2年1月号～5 3年1月号)を光文社カップブックスとして刊行。

昭和5 3年(1 9 7 8年) 5 6歳

4月、「果て遠き丘」集英文庫版を刊行。

5月～9月、文庫版の「氷点」「続・氷点」「積木の箱」(以上、各上下巻)、「病めるときも」「天北原野」(3巻)を朝日新聞社より刊行。

1 0月、短編集「毒麦の季」を光文社より刊行。

1 2月、エッセイ「天の梯子」(「主婦の友」に連載、昭和5 2年1月号～1 2月号)を主婦の友社より刊行。

昭和5 4年(1 9 7 9年) 5 7歳

4月、小説「続・泥流地帯」(北海道新聞日曜版に連載、昭和5 3年2月26日号～1 1月12日号)を新潮社より、エッセイ集「孤独のとなり」を角川書店より刊行。

5月、小説「岩に立つ」(書下ろし)を講談社より刊行。同月、「石の森」集英社文庫版、「石ころのうた」角川文庫版を刊行。

昭和5 5年(1 9 8 0年) 5 8歳

3月、歴史小説「千利休とその妻たち」(「主婦の友」に連載、昭和5 3年1月号～5 5年3月号)を主婦の友社より刊行。同月、「道ありき」

8月、「生命に刻まれし愛のかたみ」各新潮文庫版を刊行。

9月、「ひつじが丘」講談社文庫版を刊行。

昭和5 6年(1 9 8 1年) 5 9歳

4月、小説「海嶺」上・下(「週刊朝日」に連載、昭和5 3年10月6日号～5 5年10月17日号)を朝日新聞社より刊行。

5月、「愛に遠くあれど」講談社文庫版、

8月、「この土の器をも」(「道ありき」第2部)新潮文庫版を刊行。

1 0月、画文集「イエス・キリストの生涯」(書下ろし)を講談社より刊行。

1 2月、「わたしたちのイエスさま」(書下ろし)を小学館より刊行。

昭和5 7年(1 9 8 2年) 6 0歳

1月、「氷点」角川文庫版、

2月、「光あるうちに」新潮文庫版を刊行。

2月、「わが青春に出会った本」(「主婦の友」に連載、昭和5 5年4月号

～ 56年12月号)を主婦の友社より刊行。

3月、「続・氷点」角川文庫版、

4月、「自我の構図」講談社文庫版を刊行。

4月、小説「青い棘」(「ベルママン」連載、昭和55年1月号～57年2月号)を学習研究社より刊行。

5月、直腸癌手術。

7月、「泥流地帯」新潮文庫版、「病めるときも」角川文庫版を刊行。

昭和58年(1983年) 61歳

3月、「帰りこぬ風」新潮文庫版、

4月、「死の彼方までも」講談社文庫版を刊行。

5月、「三浦綾子作品集」第1巻を朝日新聞社より刊行(全18巻。以下、毎月1巻ずつ刊行)。

5月、小説「水なき雲」(「婦人公論」に連載、昭和56年5月号～58年3月号)を中央公論社より刊行。

7月、「毒麦の季」講談社文庫版、

8月、「生きること思うこと」新潮文庫版、

9月、「孤独のとなり」角川文庫版を刊行。

9月、「泉への招待」を日本基督教団出版局より刊行。

10月、随筆「私の心をとらえた言葉」を「マミイ」誌(小学館)に連載開始。

10月、「愛の鬼才」を新潮社より刊行。

12月、「藍色の便箋」(「マミイ」に「綾子からの手紙」と題して連載、昭和55年4月号～58年9月号)を小学館より刊行。

12月、「海嶺」が映画化され、松竹系で全国一斉公開。

昭和59年(1984年) 62歳

5月、「北国日記」を主婦の友社より刊行。

5月7日～6月13日、「週刊朝日」連載予定の長篇小説執筆のため、アメリカ、イタリア、イスラエル、ギリシアへ取材旅行。10月、「岩に立つ」講談社文庫版、「積木の箱」(上・下)新潮文庫版を刊行。同月、「三浦綾子作品集」(朝日新聞社刊)全18巻配本終了。

11月、「新約聖書入門」、

12月、「旧約聖書入門」各光文社文庫版を刊行。

昭和60年(1985年) 63歳

4月、短歌に寄せてのエッセイ「白き冬日」(「ベルママン」連載、昭和57年5月号～59年12月号)を学習研究社より刊行。

5月、光世氏との共著「太陽はいつも雲の上に」講談社文庫版、「天北原野」(上・下)新潮文庫版を刊行。5月、「週刊朝日」に連載予定の小説執筆のため、四国今治方面取材旅行。その後、身体不良のため、大阪にてミルク断食療法を3週間受ける。6月14日帰旭。

6月、「水なき雲」中公文庫版を刊行。

11月、「ナナカマドの街から」(月刊「ダン」連載、昭和57年1月号～60年12月号)を北海道新聞社より刊行。

昭和61年(1986年) 64歳

3月、「聖書に見る人間の罪」(「宝石」に連載、昭和59年11月号～61年4月号)を光文社カップブックスとして刊行。同月、「細川ガラシャ夫人」(上・下)新潮文庫版、
5月、「青い棘」講談社文庫版、
7月、「愛の鬼才」新潮文庫版を刊行。
8月、小説「嵐吹く時も」(「主婦の友」連載、昭和59年1月号～61年1月号)を主婦の友社より刊行。
9月、「夕あり朝あり」(「新聞3社連合」北海道、東京、中日、西日本新聞の日刊紙)連載開始。
11月、「海嶺」(上・中・下)角川文庫版を刊行。
12月、小説「雪のアルバム」(エキスパートナースに連載、昭和60年5月号～61年12月号)を小学館より刊行。
12月、自伝小説「草のうた」(月刊「カドカワ」に連載、昭和60年5月号～61年4月号)を角川書店より刊行。

昭和62年(1987年) 65歳

3月、「広き迷路」新潮文庫版を刊行。
4月、「生かされてある日々」を「信徒の友」に連載開始。
5月、小説「ちいろば先生物語」(「週刊朝日」に連載、昭和61年1月3・10日合併号～62年3月27日号)を朝日新聞社より刊行。
6月、「風はいずこより」をキリスト教月刊誌「百万人の福音」(いのちのことば社)に連載開始。
8月、ビデオ「三浦綾子、人・文学・その風土」3巻(ビデオジャポニカ)を制作。同月、ビデオ「むなしさの果てに」一巻(ライフ企画)を制作。
9月、小説「夕あり朝あり」(「新聞3社連合紙」に連載、昭和61年9月23日～62年5月31日)を新潮社より刊行。
10月、「泉への招待」光文社文庫版、
11月、「イエス・キリストの生涯」講談社文庫版を刊行。

昭和63年(1988年) 66歳

1月、エッセイ集「私の赤い手帖から - 忘れえぬ言葉」(「マミイ」に「私の心をとらえた言葉」と題して連載、昭和58年10月号～62年11月号)を小学館より刊行。同月、「藍色の便箋」小学館文庫版、
3月、「千利休とその妻たち」(上・下)新潮文庫版を刊行。
4月、「矢嶋楫子伝」を「幼児と保育」(小学館)に連載開始。
8月、エッセイ集「小さな郵便車」を角川書店より刊行。
11月、星野富弘氏との対談集「銀色のあしあと」をいのちのことば社より刊行。

平成元年(1989年) 67歳

1月、エッセイ集「それでも明日は来る」を主婦の友社より刊行。同月「ナカマドの街から」角川文庫版、
2月、「聖書に見る人間の罪」光文社文庫版を刊行。同月、「氷点」第七回教文雪まつり芸術劇場の夕べ(札幌教育文化会館)にて公演される。
3月、「水なき雲」フジテレビにて放映される。

4月、「氷点」「続・氷点」テレビ朝日にて2日に亘り放映される。

5月、カセットブック「それでも明日は来る」を主婦の友社より、同月、カセットブック「風はいずこより」をいのちのことば社、ライフ企画より発行。

6月、結婚30年の記念にCDとテープ「結婚三十年のある日に」(非売品)を作る。

9月、エッセイ「生かされてある日々」(「信徒の友」昭和62年4月号～平成元年9月号まで収録)を日本基督教団出版局より刊行。

9月、小説「あのポプラの上が空」(「IN・POCKET」に連載、昭和63年1月号～平成元年8月号)を講談社より刊行。

9月、「草のうた」角川文庫版を刊行。

11月、語録「あなたへの囁き」を角川書店より刊行。

12月、小説「われ弱ければ - 矢嶋楫子伝」(「幼児と保育」に連載、昭和63年4月号～平成元年7月号)を小学館より刊行。

11月21日～26日まで札幌丸善にて、12月7日～11日まで旭川丸井デパートにて「作家生活25周年記念三浦綾子展」が開催される。

12月、カセットブック「現代の夫婦愛を語る」を主婦の友社より発行。

平成2年(1990年) 68歳

1月14日、大阪毎日テレビ制作「尾灯」放映。

3月、「ちいろば先生物語朝日文庫版を刊行。

7月、「我が青春に出会った本」新潮文庫版を刊行。

8月26日、フジテレビドキュメンタリー「三浦綾子・祈りと執筆の日々」放映。

9月、エッセイ集「風はいずこより」(「百万人の福音」に連載、昭和62年6月号～平成2年5月号)をいのちのことば社より刊行。

10月、「北国日記」集英社文庫版を刊行。

11月、「夕あり朝あり」新潮文庫版を刊行。

平成3年(1991年) 69歳

1月、「小さな郵便車」角川文庫版を刊行。

2月28日、NHKテレビ「ほっかいどうスペシャル」 「光あるうちに～三浦綾子、その日々」放映(6月26日に全国放映される)。

3月、「天の梯子」集英社文庫版を刊行。

4月、「三浦綾子 - 文学アルバム」を主婦の友社より刊行。

7月、主婦の友社創業75周年記念出版「三浦綾子全集」(全20巻)第1巻配本開始。

9月、「祈りの風景」を日本基督教団出版局より刊行。同月、「白き冬日」講談社文庫版を刊行。

10月7日、TVH開局記念番組、月曜・女のサスペンス「北国旭川・死の彼方までも」放映。

11月、エッセイ集「心のある家」を講談社より刊行。

平成4年(1992年) 70歳

1月、「あなたへの囁き」角川文庫版を刊行。

1月、パーキンソン病の診断を受ける。

3月、小説「母」(書下ろし)を角川書店より刊行。

9月、「生かされてある日々」新潮文庫版を刊行。

10月、「あのポプラの上が空」講談社文庫版を刊行。同月、「藍色の便箋」
12月、「雪のアルバム」各小学館ライブラリー版を刊行。

平成5年(1993年) 71歳

1月、「夢幾夜」(「短歌」に連載、昭和52年5月号～53年8月号)角川文庫版を刊行。

2月、「私の赤い手帖から」小学館ライブラリー版を刊行。

4月、「三浦綾子全集」主婦の友社刊、全20巻配本終了。同月、旭川女子高等商業学校に「三浦綾子文庫」オープンする。同月、「われ弱ければ - 矢嶋楫子伝」小学館ライブラリー版を刊行。

6月、「嵐吹く時も」(上・下)新潮文庫版を刊行。

8月、小説「銃口」(「本の窓」小学館)37回をもって完結す。

9月、エッセイ集「明日のあなたへ」(「週刊女性」に連載、平成2年6月19日号～5年4月27日号)を主婦と生活社より刊行。

9月20日、「三浦綾子全集完結記念講演会」に出席のため5年ぶりに上京。東京カザルスホールにて綾子氏挨拶。

10月、「風はいずこより」集英社文庫版を刊行。

11月8日、三浦綾子氏旧宅解体式に出席。

12月6日、TVドラマ「喪失」UHBにて放映される。同月、唄と語り「神共にいまして」光世氏との共同テープとCDを発行。

平成6年(1994年) 72歳

2月、ひろさちや氏との対談集「キリスト教・祈りのかたち」を主婦の友社より刊行。

3月、小説「銃口」上・下(「本の窓」に連載、平成2年1月号～5年8月号)を小学館より刊行。

6月2日、3日、前進座による芝居「母」旭川公演。

6月、「ちいろば先生物語」(上・下)集英社文庫版を刊行。

7月24日、山田洋次監督と対談(「北海道新聞」に平成6年8月7日～12日まで6回にわたり掲載される)。

11月、「心のある家」講談社文庫版を刊行。

11月、エッセイ集「小さな一歩から」(「北海道新聞日曜版」リレーエッセイで連載したもの他)を講談社より刊行。

11月22日～28日、三越札幌店にて、写真展「三浦綾子の世界」(北海道新聞社主催)が開催される。

12月26日、35回目の子供クリスマス会を自宅で行う。

平成7年(1995年) 73歳

1月、自伝小説「命ある限り」を月刊「野性時代」角川書店に連載開始。

2月、対談集「希望・明日へ」を北海道新聞社より刊行。

5月、書き下ろしエッセイ集「新しき鍵」を光文社より刊行。

10月10日～15日、旭川西武デパートにて、「三浦光世、綾子夫妻の思い出箱展」が開催される。

10月、エッセイ集「難病日記」(キリスト教月刊誌「信徒の友」)に「生かされてある日々」と題して連載。平成4年8月号の一部と同年9月号～

7年3月号)を主婦の友社より刊行。

10月17日、「三浦綾子記念文学館」設立発起人会に出席。

12月6日、「三浦綾子記念文学館」設立実行委員会に出席。

平成8年(1996年) 74歳

3月17日、名人等将棋七冠王羽生善治氏来宅。

3月、「銃口」のNHKテレビ化で旭川市内口ケ始まる。

5月14日、末弟堀田秀夫氏死去。

4月、自伝小説「命ある限り」(「野性時代」に連載、平成7年1月号～8年4月号 未完)を角川書店より刊行。

6月、「母」角川文庫版を刊行。

6月23日、札幌医大大学祭にて「人間性の回復」と題して講演。途中具合が悪くなり休憩、その間光世氏話をする。再び登壇、最後を締め括る。

5月27日、HBCラジオ放送「つづれ織る命、37年目の三浦綾子夫妻」と題して光世さん・綾子さん揃って出演。

6月2日、NHKテレビ「さわやかインタビュー」に、光世さん・綾子さん出演、全国放送さる。

7月、幻覚がひどくなり(パーキンソン病の薬の副作用)、気力、体力ともに低下、8月、快方に向わず、3本の連載を已む無く休載。

9月3日、「三浦綾子文学館をつくろう札幌の会」結成総会、綾子さん不調のため光世さん出席。

9月11日、「第一回井原西鶴賞」受賞。大阪より西鶴文学代表の榊井寿郎氏来旭、自宅にて授賞式行う。

9月16日、大雪クリスタルホールにて「三浦光世 & 綾子五郎部俊朗、愛のコンサート」開催。

10月、「新しき鍵」光文社文庫版刊行。「明日のあなたへ」集英社文庫版刊行。

11月1日、北海道文化賞受賞、札幌アカシヤホテルの授賞式に出席。

11月19日、旭川青年大学講演会で綾子さん挨拶、光世さん講演。

12月8日から6回にわたり、ドラマ「銃口」がNHK(BS2)で、翌年3月1日から3回、土曜ドラマとしてNHK(総合テレビ)で放映。

平成9年(1997年) 75歳

エッセイ2本、自伝小説1本、1月より休載。

1月27日よりリハビリのため札幌柏葉脳神経外科病院に光世さんとともに入院。

3月21日、旭川東郵便局開局20周年記念の絵八ガキ「三浦綾子の世界」発売。

4月1日、「三浦綾子記念文学館」が財団法人、三浦綾子記念文化財団設立認可が下りる。

5月、講演集「愛すること生きること」を光文社より刊行。

6月12日、柏葉脳神経外科病院退院。

7月4日、アジア・キリスト教文学賞受賞。ソウルでの授賞式は体調悪く欠席。

7月29日、発熱のため旭川リハビリテーション病院に入院。8月27日退院。

9月9日、北海道開発功労賞受賞。

11月、書き下ろしエッセイ集「さまざまな愛のかたち」をほるぷ出版より刊行。

平成10年(1998年) 76歳

1月1日、「銃口」(上・下)小学館文庫版を刊行。
3月19日、「三浦綾子記念文学館」建築完成。
3月31日、同建物の引き渡し終了。
6月5日、語録「言葉の花束」- 愛といのちの 770 章 - を講談社より刊行。
6月13日、「三浦綾子記念文学館」開館。
7月10日、全集未収録初期作品集「雨はあした晴れるだろう」を北海道新聞社より刊行。(「三浦綾子記念文学館」開館記念)
12月18日、全集未収録エッセイ集「ひかりと愛といのち」を岩波書店より刊行。

平成11年(1999年) 77歳

1月1日、「われ弱ければ - 矢嶋楫子伝」小学館文庫版を刊行。
6月、「命ある限り」角川文庫版を刊行。
8月、「藍色の便箋」小学館文庫版を刊行。
10月、「銀色のあしあと」-星野富弘氏との共著-講談社文庫版を刊行。
10月12日午後5時39分、多臓器不全により昇天。

10月19日 市民葬「作家三浦綾子さんを偲ぶ会」
10月25日(月)午後2時から
市民文化会館大ホール
(旭川市7条9丁目 tel 0166-25-7331)

以上 1999/10/12 現在

参考文献

新潮文庫「道ありき」

講談社文庫「小さな一歩から」(三浦綾子氏自書年譜)

講談社「言葉の花束」(八柳洋子氏作成三浦綾子年譜)

至文堂「国文学 解釈と鑑賞」98年11月号(三浦綾子特集号)